



令和5年6月1日

らいかい恵子 議員便り 255号

合志市市議会議員 来海恵子 合志市幾久富 1642-38 ☎ 090-9655-1143

私の住む杉並台の堀川では、今年も螢が飛び交っています。昔は汚かった堀川に、螢が戻ってきて21年。最初は職員に言っても誰も「まさか?」と信用してくれませんでしたが、今では区民の癒しになっています。来海は議員だよりを、毎月一人で歩いて8000枚配っています。



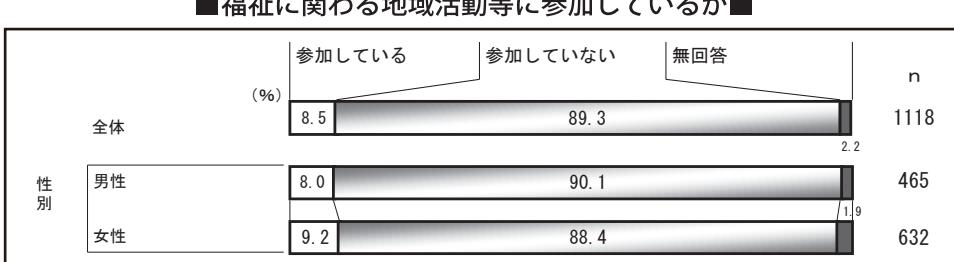
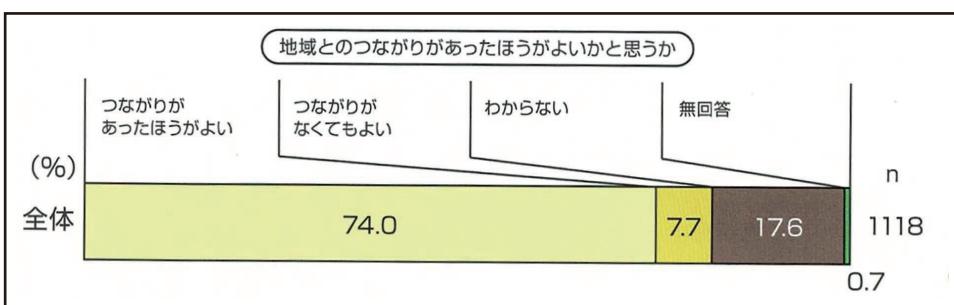
お互いさまの社会に ❤️

第4期「合志市地域福祉計画・地域福祉活動計画～市民みんなでまるごと地域共生社会～」(令和5年度～令和9年度)が策定され、全戸に概要版が配布されました。ご覧になりましたか？最近の傾向としてSNSの影響などで他人の不祥事などは息の根を止めるほど攻めるが、自分の事となると私も含めて社会のせいにしがちです。時代は変われど「お互いさま」の気持ちがあれば、もう少し生きやすくなれるのではないかでしょうか。地域福祉計画の市民アンケートから読み取れる問題点を、みなさんと共に考えられたらと願います。

地域とつながりたい

若い・若いと言われる合志市も高齢化が進み、約4人に1人は高齢者(65歳以上)です。その中

で、地域とつながりがあつたほうがいいと考える方が74%です。が、福祉に関わる地域活動(ボランティア)

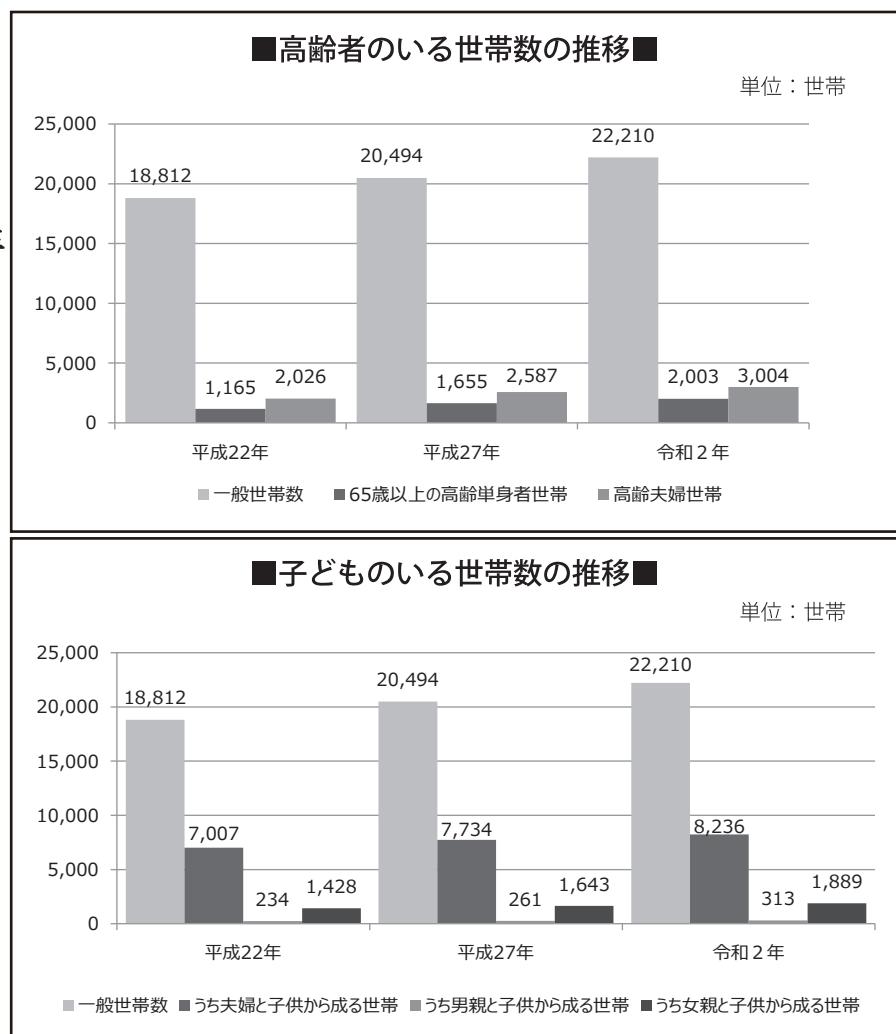


に参加されている方は男女とも1割にも満ちません。また、各種ボランティア団体も高齢化で後継者問題が浮上してきています。このギャップが、今の合志市の現状です。決して責めているのではなく、どうしたら少しでも住みやすくなるでしょうか。

合志市の高齢者世帯と子育て世代の推移

国勢調査によると、合志市の人口と世帯数が増えるに伴い高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯が増えています。令和5年度末には前期高齢者(65歳～74歳)数と、後期高齢者(75歳以上)数が逆転する予測も出ています。もちろん、来海も3年前に母が亡くなり単身世帯です。一人になって変わったのは、周りに迷惑をかけないように健康と食生活に気をつけるようになりました。

また、子どものいる世帯数も増えるとともに、一人親家庭も



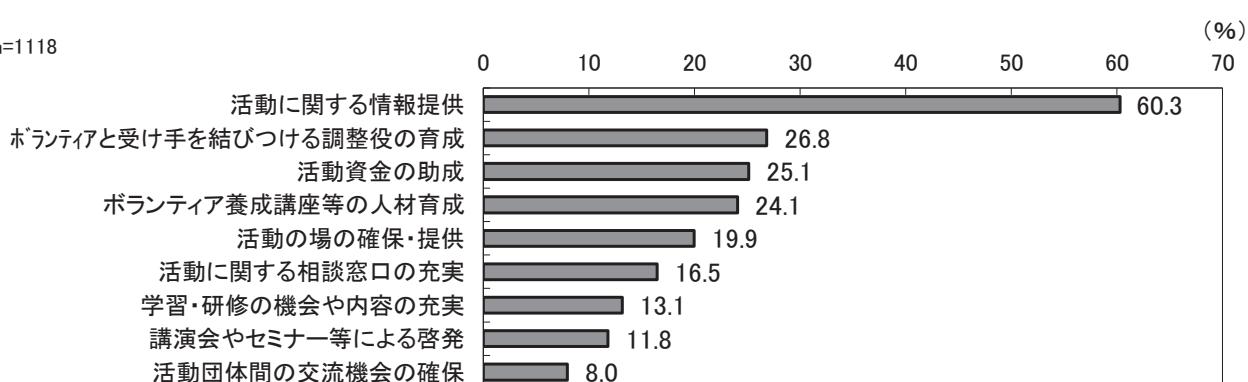
増えています。私は中学3年生の時に父が交通事故で亡くなり、母子家庭で育ちました。母と祖母が懸命に育ててくれて、そのことで弟と二人寂しい思いはしたことはありません。平成14年に議員に初当選して以来、ひとり親家庭福祉協議会とご縁ができてお手伝いをさせていただいています。コロナ禍で会員のみなさんも大変でしたが、総会などで母子が元気で頑張っている姿をみると嬉しいです♡ひとり親家庭福祉協議会では生活用品や食料品の配布やランドセルのプレゼント、楽しい催しなどがあり、就職するための資格修得支援や生活相談にものってくれます。最近は、父子家庭も増えています。関心のある方は、ひとり親家庭福祉協議会の宮田会長(☎247-3668)までお問い合わせください。

地域とつながっていたほうがいいと考える方が74%いらっしゃいますが、裏を返せば人間一人では生きていけないということではないでしょうか。最近は自治会に入らない方や、老人会や子ども会が会員数の減少で解散するところもあると聞いています。せめて、お隣と挨拶を交わして、何かあれば市役所や民生児童委員さんに連絡してくれる関係を築ければいいなと心から願います。

福祉情報の見える化

■活動を盛んにするために市が取り組む必要のあること（全体／複数回答）■

■n=1118



市役所は広報「こうし」やホームページ、社会福祉協議会は広報誌「ほっとらいん」やホームページで毎月情報提供していますが、市民には中々届いていないとアンケートの結果から推測されます。私の議員だよりもそうですが、自分たちは分かりやすく情報提供しているつもりでも理解されていないのではないかでしょうか。たとえば、ボランティアと受け手を結びつける調整役の育成や、ボランティア養成講座などの人材育成、活動団体間の交流機会の確保などは社会福祉協議会の中にあるボランティア協議会が行っています。講習会やセミナーなども、毎年開催されています。

女性支援や虐待などについては女性・子ども支援課(☎ 248-1199)

生活困窮などの相談窓口は生活支援相談センター安心サポート合志(☎ 248-1100)

介護や認知症など高齢者に関することは高齢者支援課(☎ 248-1102)

子育て支援や児童福祉に関することは(☎ 248-1162)

障がい者支援に関することは福祉課障がい福祉班(☎ 248-1144)

生活保護申請や相談は福祉課社会福祉班(☎ 248-1144)

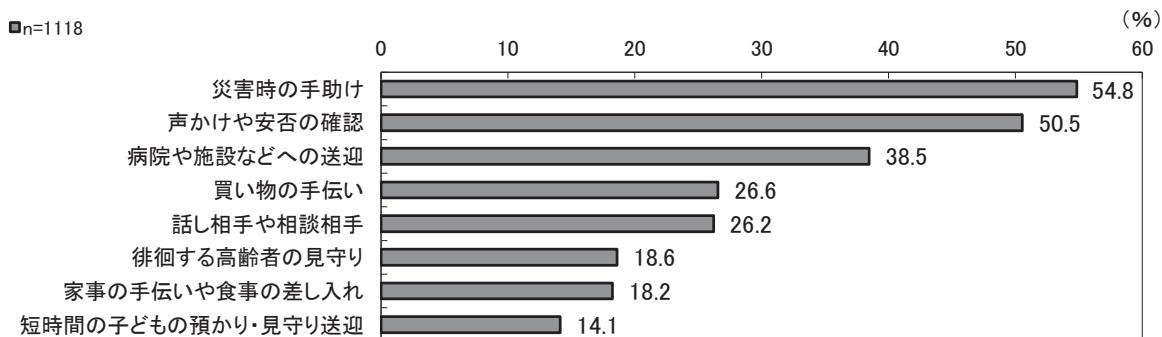
検診・予防接種・健康づくりに関することは健康づくり推進課(☎ 248-1173)

福祉全般の具体的な取り組みは合志市社会福祉協議会(☎ 242-7000)

これは私ですが、関心のある情報は覚えていますが、読んでも関心のないことは閉じたとたんに忘れてしまいます。だからこそ、情報の見える化が必要だと思います。母が元気な時に言われたことがあります、「行政はカタカナの難しい言葉を使うが、自分たちは分かっていても市民が理解して読んでもらわないと、役に立たない」と。私たちも「知らなかつた」「分からぬ」で済まない大事な情報は切り取って保管するとか、昔から「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」と言いますが誰かに尋ねてください。

いざという時の助けは誰がするのか？

■日常生活が不自由になったときにしてほしい手助け（全体／複数回答）■



災害時の手助けは行政はもちろんですが、地域でも行わなければなりません。現在、地区ごとに避難行動要支援者名簿を作成中です。隣近所と挨拶を交わす関係を築いていると、いざという時に声掛けや安否の確認など一番の助けになると思います。どんなに立派なお子さんや親戚がいらっしゃっても、遠くにお住まいなさいざという時には間にあいません。「お互いさま」の気持ちで、助けあいたいですね♡また、高齢者の一人暮らしの方などは民生委員児童委員さんが定期的に声掛けなど訪問されて見守られています。

社会福祉協議会(☎ 242-7000)では「ぽっかぽかサポート事業」を行っていて、一人暮らしの高齢者や昼間一人の高齢者で登録された会員さんに日常のちょっとした困りごと(電球の交換・ゴミ出しなど)、病院や買い物の付き添いや、話し相手を有料ですが行っています。また、杉並台では「ぽっかぽか杉並台」(☎ 248-5200)が空家を利用した居場所つくりの家「友・遊・悠」で月・火・木 11 時から 13 時まで体操や認知症予防トレーニング、昼食で楽しい時間を過ごされています。すずかけ台でも「ぽっかぽかすずかけ」(☎ 200-3752)が、毎日楽しい催しをされています。両方とも、会員登録が必要です。

徘徊する高齢者の見守りは、社会全体で行わなければならないと思います。私も認知症サポーターですが、認知症サポーター養成講座を受講されると認知症について理解が深まり声掛けなどもしやすくなります。家族で悩まないで、高齢者支援課(☎ 248-1102)やお近くの民生児童委員さんにご相談ください。必要な部署につないでくださいます。

短時間の子どもの預かりや見守り送迎は、社会福祉協議会こども支援センター(☎ 242-7008)がファミリーサポート事業を行っています。会員登録が必要です。

